

動物実験に関する検証結果報告書

日本大学工学部

動物実験に関する外部検証事業

(国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会)

平成 29 年 3 月

平成 29 年 3 月 27 日

日本大学工学部
学部長 出村 克宣 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会

動物実験に関する外部検証事業

検証委員会



対象機関：日本大学工学部
申請年月日：平成 28 年 7 月 28 月
訪問調査年月日：平成 28 年 11 月 29 日
調査員：三浦 竜一（東京大学）

検証の総評

日本大学は 16 学部、3 独立大学院、通信教育部、短期大学部を持つ総合大学であり、動物実験を実施する 9 つの学部ごとに管理と運営を行う。学部を主体とした運営と管理体制であるが、一本化された機関内規程は文部科学省の動物実験基本指針（以下「基本指針」とする）に適合している。大学本部動物実験委員会と工学部をはじめとして学部動物実験委員会をそれぞれ組織し、動物実験を適正に実施する体制整備と機能的な連携が達成できている。

工学部での動物実験は年間 10 件以下で動物の飼養保管数も少ない。動物実験計画の審査や報告書の確認、自己点検・評価等により動物実験の実施状況や実験動物の飼養保管状況の把握がなされている。動物実験にかかわる規則や要項、設備や手順書等が備えられ安全で適正な実施が認められる。飼養保管施設は清潔で整理整頓が行き届き、快適な飼育環境を維持管理している。教育訓練では必要とされる内容が網羅された教材を用いた講習会の受講を原則毎年課している。大学全体の自己点検・評価と情報の公開が平成 23 年度分から行われ、必要な項目の情報が公開されている。工学部では、動物実験にかかわる実施体制や実際の実施状況・管理状況全般について適切である。工学部および全学において、自己点検に基づいて毎年のように今後の課題を掲げ、動物実験の実施体制、実験動物の飼養保管体制および施設の運営体制等のさらなる向上を目指している点が、高く評価できる。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 機関内規程は、基本指針および環境省の実験動物飼養保管基準（以下「飼養保管基準」とする）に基づいた「日本大学動物実験運営内規」に一本化され、細則として内規解説も制定されている。工学部独自に「日本大学工学部動物実験マニュアル」や「日本大学工学部実験動物施設利用マニュアル」等を定める。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 工学部動物実験委員会では 11 名の委員、本部動物実験委員会では関連する学部から選任された委員（工学部からは 1 名）および学外委員 2 名を含む 21 名から構成される。動物実験計画書等は両委員会で審査されるので、審査基準等の標準化が図られている。また、工学部独自に獣医師や実験動物技術者等による事前確認が行われたうえで審査が行われる。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。

<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
4) 改善に向けた意見 工学部動物実験委員会では、委員 11 名の 8 名が「その他学識経験を有する者」の区分である。一方、動物実験等あるいは実験動物に関する優れた識見を有する者に区分される委員がそれぞれ 2 名と 1 名と少ないので、バランスのとれた委員会構成を図られたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験の実施にかかわる各種様式には必要とされる項目が網羅され、その記入例も備える。動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の実施状況を把握できる体制を定め、すべての学部で同一の体制で行っている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 工学部では、遺伝子組換え動物や病原体、放射性物質、有害化学物質を使用する動物実験が行われていない。大学としては、「日本大学遺伝子組換え実験実施規程」「微生物安全管理指針」「日本大学放射線障害予防規程」等の関連する規則を定め、実施体制を整備している。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果
<input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。
<input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
<input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
4) 改善に向けた意見
特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
飼養保管施設は 2 か所あり同じ実験動物管理者が担当し、獣医師および実験動物 2 級技術者の有資格者も飼養保管に携わる。具体的な施設利用マニュアルや飼養保管マニュアル、緊急時対応マニュアル等を備えている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見
特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

動物実験計画書等の審査は学部動物実験委員会で行い、動物実験運営内規で定める権限の移譲により学部長の承認をもって動物実験を開始できる。全学動物実験委員会にも報告され、必要な場合指導や助言が行われている。
--

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 工学部では平成 27 年度 3 回の委員会開催があり、議事録等の資料から活発な委員会活動が認められる。8 月を除き毎月開催される本部動物実験委員会では、動物実験計画書を確認し必要に応じて助言・指導を行っている。特に審査時に注意を要する動物実験計画については、学部委員会での審査前に学内の有識者で共有し検討を行っているため、学部委員会で承認となった計画が全学委員会で一転して動物実験の中止につながる判断がなされたことはない。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 全学と学部をあわせると 30 名を超える動物実験委員が審査を行的確な判断を求められる状況を考えれば、迅速で円滑な申請と審査を可能とするオンラインシステムの導入を検討されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 新規の動物実験の開始は毎年 5 件以内である。継続する動物実験計画では自己点検票が提出され、終了報告も含め 100%の提出率であり、実施状況の把握ができている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 遺伝子組換え動物、病原体、放射性物質等を使用した動物実験は行われていない。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 マウス・ラットは主に短期的な飼育で繁殖は行われず、ブタは専任の職員により飼養保管が行われる。各種マニュアルに沿った運営が行われ各種記録も保管されている。良好な状態での適切な飼養保管が認められた。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 2 か所ある飼養保管施設には動物種ごとに計 3 つの飼育室があり、いずれも整理整頓され衛生的である。施設・機器の維持管理にかかわる記録が保存され、飼養保管マニュアルに沿って適正に運営されている。カードによる入退室の管理が導入され自動的に記録とその保管が行われている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 軽微な不具合であるが、動線の交差や空調の改善が望ましい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 必要とされる内容を網羅した教育教材により、実験実施者等に対して原則毎年の受講を課している。実験動物管理者や飼養者は関連学会や学外研修等にも積極的に参加して最新の情報の収集と更新に努めている。また、学外有識者を招いた教育講習を開催して、動物実験委員も含めた関係者の意識向上を図っている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。

- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験にかかわる情報は大学全体をとりまとめて、大学ホームページ内に動物実験関係のウェブサイトを立てて公開している。国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会が推奨している情報公開項目ほぼすべてに対応している。これまでに実施された他学部の外部検証の報告も掲載されている。よって、自己点検・評価結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物実験委員会委員の専門分野を追加すること。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

工学部および全学において、自己点検に基づいて毎年のように今後の課題を掲げ、動物実験の実施体制、実験動物の飼養保管体制および施設の運営体制等のさらなる向上を目指している点が、高く評価できる。